

2020年4月22日

報道機関 各位

新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療機関への影響調査まとめ（速報）

愛知県保険医協会
理事長 荻野高敏

（名古屋市昭和区妙見町19-2）

謹啓 日夜のご活躍に敬意を表します。

私ども愛知県保険医協会は、愛知県内で9150人余りの医師・歯科医師が入会している団体です。このたび、新型コロナウイルス感染拡大が県内の医療機関にどのような影響を及ぼしているかを調査するため、会員に対してアンケート（FAX）を送付し、4月22日時点で1799件の回答が寄せられています。4月17日時点のアンケートの結果をまとめましたので送付させていただきます。

このアンケートについてのお問い合わせは下記までお願いします。

謹白

<連絡先>

愛知県保険医協会／担当事務局 伊藤・日下（くさか）
名古屋市昭和区妙見町19-2
電話 052-832-1346 FAX 052-834-3584
E-mail : itohgo@doc-net.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急アンケートまとめ

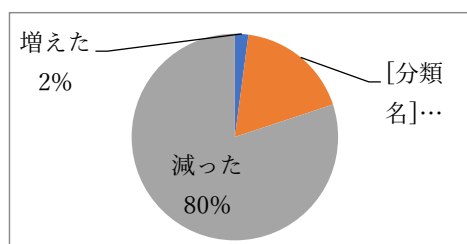
(回答数：1,758件 [4/17現在])

[結果の特徴]

- 回答を得られた医療機関のうち、80%が「外来患者数が減っている」と答えている。また、外来患者数の減少割合は平均で2.7割。診療科別では、小児科、耳鼻咽喉科の減少割合が顕著。
- 外来患者数の減少割合では、1割超2割以下が最も多く、全体の33%を占めている。
- 保険診療収入についても、76%が「減っている」と回答している。
- 寄せられたコメントでは、マスク・ゴーグル・ガウン・消毒液など医療器具の不足を訴える意見が最も多く、1284件(全体の73%)のコメントが寄せられた。「マスク、ゴーグル等医療器具の不足、このままだと診療の継続が難しくなります」などの声があるように、医療器具が不足すれば地域の医療を支える医療機関の診療が継続できなくなる恐れもある。
- PCR検査については、依頼をしても検査を行ってもらえないとの意見が多数寄せられているほか、「検査数を増やす必要がある」「診療所でも検査を実施できるようにしてほしい」などの意見もあった。また、「自治体で発熱者外来を用意してほしい」との声もある。
- 患者減・収入減によって、医院経営に関する不安の声も寄せられている。「3月以上に4月は減収となります。今後の経営が不安です」「給与の支払いに困っている」「診療所で新型コロナの患者がでた場合休診せざるを得ないが、それも時間の問題。昨年開院したばかりなので、経営が非常に厳しい状態」など現在でも苦しい状態がうかがわれる。今後、この事態が長引くようなことがあればさらに逼迫すると思われる。

1.前年同時期と比べた外来患者数(3月診療分)

	増えた	変わらない	減った
件数	36	306	1377
割合	2.09%	17.80%	80.10%



2.前年同時期と比べた外来患者数の減少割合(3月診療分)

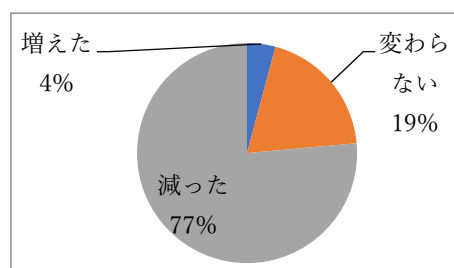
	～1割	～2割	～3割	～4割	～5割	～6割	～7割	～8割	～9割	～10割
件数	291	425	294	104	79	37	22	24	8	0
割合	22.66%	33.10%	22.90%	8.10%	6.15%	2.88%	1.71%	1.87%	0.62%	0.00%

3.診療科別・前年同時期と比べた外来患者数の減少割合の平均(3月診療分):単位「割」

全診療科	内科	精神科	小児科	外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科	その他
2.68	2.59	2.01	3.74	2.35	2.52	2.37	2.40	2.64	2.63	3.93	2.26	2.62

4.前年同時期と比べた保険診療収入(3月診療分)

	増えた	変わらない	減った
件数	70	327	1288
割合	4.15%	19.41%	76.44%



5.前年同時期と比べた保険診療収入の減少割合(3月診療分)

	～1割	～2割	～3割	～4割	～5割	～6割	～7割	～8割	～9割	～10割
件数	329	381	228	99	56	23	25	25	8	0
割合	28.02%	32.45%	19.42%	8.43%	4.77%	1.96%	2.13%	2.13%	0.68%	0.00%

6.寄せられたコメント

[医療器具の不足]

- ・感染防護具や消毒液の入手困難。それらを手に入れるために、定価の10倍程度の出費が必要となり、収入減のところ支出増となり、経営が圧迫されている。(内科)
- ・ゴーグル、消毒液はまったく入らない。防護服、N95 マスク等入手できず、診療で COVID-19 感染リスク大です。現場の医療従事者を守る方法を何とか講じていただきたい。(内科・外科)
- ・今後、マスク、ゴーグル、防護服が安定して入手できるようになれば医療者の感染、休診が増えかねません。(小児科)
- ・マスク、アルコール消毒薬等が不足しており、このまま続くと診療継続が危ぶまれる。少しずつでもいいので医療機関優先で販売していただきたい。(歯科)
- ・透析施設で、シャントの手術をしているため、手術用のマスクや手術着が不足している。(透析)
- ・マスクが手に入りやすく、数日使い続けている。(内科)

[PCR検査について]

- ・PCR 検査対象者を増やしてほしい。対象と思われる患者は今までに 100%却下されています。(内科・小児科)
- ・PCR 検査の依頼がすぐに行えるようにしてほしい。保健所を通すと時間がかかりかかる。医師がコロナを疑ってもなかなか PCR 検査ができない(内科)
- ・PCR 検査を依頼しても、なかなか受けてもらえない。肺炎の患者様を病院へ紹介するが、コロナウイルス感染を疑われて受け入れを拒否され続けた。受け入れ先の病院を探すのに苦労している。(内科)
- ・PCR検査は必要だと考えて、依頼しても対象外とされる事が多い。今後は早期診断が感染拡

大防止のためには必須と考えます。また、血清抗体検査ができるようになるとよいと考えております(内科)

- ・PCR検査はもっと幅広く実施、早い時期の対応を求める。アビガンも早期に使用することで早い回復、ウィルス排泄の抑制が期待できるので。(小児科)
- ・PCR 検査抗体検査を通常の病院やクリニックでもできる体制をとってください。(外科)
- ・PCR が必要な方に実施できないのが国の方針であるならば、国民にきちんとその旨を伝えてほしい。現場は混乱しています。一方で首相がメディアの中で、PCR 検査を増やすと言われては、一般市民は、そろそろできるようになったんじゃないかと思ってしまう。(内科)

[保健所などの体制・発熱外来などについて]

- ・保健所は PCR をスムーズに実施してくれないことが多い。もう少し PCR の適応範囲を広げるか、医師の必要とのコメントを重視してほしいです(内科・外科)
- ・保健所の対応がうまくいってない。PCR 検査を受けさせてくれない。(内科・小児科)
- ・保健所に相談しても、かかりつけ医に相談してくださいと言われ、受診する患者が多く、対応が難しくなっている。(内科)
- ・PCR検査をできる場所をさらに増やして欲しい。保健所への相談は意味をなしていないと思う。(Telしてもクリニック受診と言われるのみ)(医科)
- ・検査体制を充実し、早期に診断し、重症になる可能性のある人に早期に治療を開始する必要あり。(医科)
- ・発熱・咳患者にどう対応するかが問題で、通常の診療とは別にする必要性を考えている。できれば発熱外来を自治体で用意してほしい。(内科)

[医院の診療体制について]

- ・全ての来院者の体温測定。カゼ、発熱者の診療を別にする。クリーンパーテーションの設置。自家用車の方は車内で待機等。(医科)
- ・インフルエンザ検査しない。急性疾患のネブライザー中止。ファイバースコープ、咽頭培養、溶連菌検査などガウン着用。定期的換気、受付時の患者さんの手指消毒。(耳鼻科)
- ・急がない検査を控えている(検診の内視鏡やフォローアップ採血)、風邪症状患者の隔離強化、内視鏡検査当日の検温(発熱あれば中止)、必要に応じてゴーグルの装着・換気。環境消毒強化。(内科)
- ・口腔内で切削等の処置を行ったり、スケーリング等の感染飛沫のリスクが高いと思われるものについては最小限に抑えています(歯科)

[医院の経営について]

- ・3月以上に4月の減収となります。今後の経営が不安です。(外科)
- ・診療所でコロナ患者が出たら、情報が広がり休診にせざるを得ないため、休診に追い込まれるのは時間の問題。昨年開院したばかりの当院としては、経営が非常厳しい状態である。(内科・小児科)
- ・4月に入ってからとりわけ6日以降の患者さんは激減しています。通常の5割になりました。4(歯科)